

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：37102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26350029

研究課題名(和文) 伝統産業の振興と地域産業活性化をテーマとした次世代型デザイン教育

研究課題名(英文) The next-generation design education with the theme of promoting traditional industry and revitalizing regional industries

研究代表者

井上 友子 (INOUE, Tomoko)

九州産業大学・芸術学部・教授

研究者番号：90330787

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：研究は、地域の伝統工芸と技術の継承、さらにはそれらに関連した産業の振興と活性化を目的とした活動を主体としている。研究は、代表者・分担者・企業・行政・学生らが協働し、企業に対しては内的活性化を、学生に対しては実践的デザイン教育を実施した。成果は福岡中心部の商業ビルで発表し、多くのマスコミの取材・報道を通して伝統や地場産業の伝播につながった。

研究結果から、高い教育効果が認められ、2016年、芸術学部に、社会に役立つ情報デザイナー、ブランディングプランナー、デザインプロデューサーなどを育成する「地域ブランド企画専攻」「情報デザイン専攻」で構成される「ソーシャルデザイン学科」が設置された。

研究成果の概要(英文)： This studies were based on local traditional industrial arts, activities, and aiming for industrial promotion in conjunctions with revitalization of activities of them for the technical successions. In these studies, we principal researchers, section researchers, firms, administrators and students provided internal stimulation for the firms, and provided practical education for the students.

The results of studies were exhibited at the popular commercial building in center of Fukuoka, and many influential medias covered that event helping awareness of such event in the public.

In the April 2016, "Social Design Course" which composed of "Regional Brand planning Course" and "Information Design Course" was founded in the art department because of good educational results were achieved in this study.

研究分野：デザイン教育

キーワード：ソーシャルデザイン 伝統的工芸品 伝承的技術 地域振興 デザイン教育 協働研究

### 1. 研究開始当初の背景

福岡県八女市の福島八幡宮境内で行われる燈籠人形芝居は、260年間続く国指定(昭和52年)の重要無形民俗文化財である。人形芝居は秋分の日をはさむ3日間に福島八幡宮の放生会で演じられ、初秋の八女の祭りに欠かせない出し物となっている。現在伝えられる人形芝居の演目解題は4種類あり、背景幕は1演目につき4~5枚が使用される。背景幕は人形芝居の舞台を演出する重要な装飾となっているが、一幕ごとの切り替えの際、屋台(人形芝居が行われる小屋)の天井近くから勢い良く床に落とされるため損傷が激しい。その上、オリジナルの背景幕は、第二次世界大戦中に焼失したことから、現在使用されている背景幕は、戦後の弥縫策として看板職人が描いたものだといわれる。よって、背景幕が重要無形文化財の人形芝居を演出する道具としていささか見劣りすると憚りながらも指摘されるのである。

「博多織」「博多人形」は、経済産業大臣指定の福岡県の伝統工芸品7種に属する。昭和52年に生産額187億円を超えていた「博多織」は、平成23年には24億円あまりとピーク時の12%まで落ち込み、同様に、昭和52年に生産額32億円であった「博多人形」は、平成23年度には7.9億円とピーク時の24%まで落ち込んだ。両者の売り上げに関するその後の公式なデータは入手し得なかったが、伝統産業に携わる現場の経営者たちは、一様に経済上の悪化を嘆き、「博多織」「博多人形」を含む伝統工芸品7種は、北部九州地方において斜陽産業の代名詞となっている。

これら経営上の問題は後継者不足を引き起こし、個々の企業体の経営維持のみならず、工芸品における伝統の維持・技術の継承・ひいてはその存続さえ危うい状況に陥ってしまった。

地場産業としての「大川家具」「ガラス工芸」「観光産業」「久留米餅」「久留米織」「八女手すき和紙」などは、戦後の経済成長期に福岡県の繁栄の一翼を担ってきたが、「伝統的工芸品」および「伝統産業」と同様、生活スタイルの変化や低価格輸入品の急増により、徐々に生産額・販売額が下降線をたどりはじめた。地場産業の経営に決定的な打撃を与えたのは、バブル崩壊後のデフレ経済であり、小規模企業経営者は規模の縮小や廃業に追い込まれるなど、淘汰が進んだ。

一例を挙げると、大川家具(木工)は、バブル最盛期の平成3年に生産額1260億円の出荷額を記録し、日本一の家具の町の異名を誇った。しかし、バブル崩壊後は生活スタイルや消費者ニーズの変化に対応できず、平成22年には生産額が23億円と最盛期の1.8%まで縮小した。

大川家具に限らず、規模の小さな企業は常に人材不足に悩まされ、企業内や業界内における内的活性化・新企画の考案・実験や試験的試み・新製品開発などが難しい時代を迎え

た。

以上のような背景のもと、何らかの打開策を模索し、本研究に積極的な関わりを求める団体・協力企業が研究代表者・分担者らと協働し、伝統工芸品や地場産業の復活、および振興を求めて研究活動を行い、「伝統産業の振興と地域産業活性化をテーマとした次世代型デザイン教育」が試行された。

### 2. 研究の目的

生産額・収益・従事者数とも下降の一途をたどる伝統技術や地場産業を守り、それらを後世に継承するための方策を講じることは、地域社会と共存する大学に期待されるひとつの役割である。また、伝統工芸・産業の歴史・技術・製品作り・販促に至るまで、芸術学部にも属するものに期待されるデザイン領域の貢献ももうひとつの役割である。本研究は、大学が団体・企業・行政と相互に協力し、これら二つの役割を試行・実施することを目的とした。

高齢化が進み経済的困窮や後継者不足に悩む伝統的工芸・地域産業界が20歳前後の学生の価値観や考え方に触れ、それらを企画や製品作りに取り入れることは、企業内や産業界の内的活性化を促し、拡充・浸透していただくかと予想された。同時に、伝統的工芸・地場産業が蓄積してきた技術・経験は芸術実践教育にこの上ない教材となる。さらに本研究によって、福岡を中心とする北部九州地方の経済的安定を図り、自立意識を取り戻し、また高める一助となれば、地場の企業に卒業後の学生を受け入れる余裕も期待できる。

本研究は2008年度にはじまり、今年で10年目を迎える地域振興活動である。この地域密着型の活動は、本学に入学しようとする学生のみならず、地域社会にも徐々に浸透しはじめ、学生と地域との絆を深めることに一役買っている。というのは、研究に参加した学生たちに責任感・積極性・コミュニケーション力等の向上が、また企業には明るさや活気が見られるという、本研究が目指した協働研究の効果が現れてきたからである。

これら確認できる良い変化をさらに手ごたえのある効果とするために「カタチ」の見える成果を得ることを目的とした。

### 3. 研究の方法

「カタチ」としての成果を残すために実践したことは、「伝統の保持・継承」、「地域産業の振興」、「芸術教育の見える化」および「伝達・広報」などである。「伝統」は、いずれも「継承」というキーワードを必須としており、歴史を含む「文化的側面」と運営を安定させるための「経済的側面」を必要とする。

同様に教育機関としての大学は、これらいずれの要素も重要であり、ないがしろにできない。よって本研究は、歴史を含む「文化的

要素の強い取り組み」、運営を安定させるための「経済的要素の強い取り組み」、それらの安定と拡充を確実なものにするための「伝達・継承のための広報」などを研究活動の柱として計画を立てた。

「文化的要素の強い取り組み」として実施した八女福島の燈籠人形舞台背景幕修復・制作は、日展などの展覧会で多くの実績を残している日本画教員の指導の下、日本画専攻の学生が新しい「背景幕」を制作する計画に一本化し、「伝統の保持・継承」のための環境整備に主眼を置いた。理由は、現在使用されている背景幕が重要無形文化財の人形芝居を演出する装飾として見劣りするものであるため、保存会から改めて新たな背景幕の制作が依頼されたからである。

一方、「文化的要素の強い取り組み」と「経済的要素の強い取り組み」の両者を兼ね備えた「博多織」「博多人形」の研究手法では、フィールドリサーチの結果、既存製品のリデザイン・新デザイン構想・販促の強化などのいくつかの軸足を置く計画が立てられた。

鎌倉時代(1241年)にさかのぼる歴史と伝統技術を継承するといわれる「博多織」、1600年代に端を発し400年以上にわたり技術を継承してきた「博多人形」は、福岡の二大伝統工芸産業である。両者に共通するのは、経済的再生・自立・振興につながる支援を必要としていることであったため、手始めに若い世代の顧客層を獲得するための現代的な「帯」や既存の人形型を用いながらポップな色彩を用いた「HAKATA DOLLS」を提案した。その後、生活スタイルの変化を重視し、マーケットインの理論に則り、「博多織」については、基本的素材である絹をそのまま用い考案した「生活雑貨」。「博多人形」については、既存の「人形型」を利用しながら、その型に縛られないデザイン開発へ拡大し、その後、購買者自身によって着彩できるDIYコンセプトの動物型人形および「オブジェやフィギュア」的イメージの強いモダン・ドール「HAKATA DOLLS」を発案・完成させ、土産物用の製品化を果たした。「帯」「人形」の現代的デザインや色彩配置については、代表者・分担者・学生が共に研究・開発し、「プロトタイプ作成」「アンケートに基づく市場の反応調査」「分析」「製品化(企業と協力)」「販促」等デザイン業務の一貫した流れに携わった。

また、「経済的要素の強い取り組み」および「地域の振興」に重点を置いた研究は、16世紀から船大工が住みつき、そのうちの一人の名・榎津久米介の名に由来する榎津指物に始まった「大川家具」、1919年創業のマルチグラスの技術力を継承する「粋工房」、奈良時代に防人がおかれ、明治期の町並みを保全している「能古の島」の観光、大正2年創業の久留米緋の老舗「宮田織物」、昭和36年創業の広幅織物専門企業「光延」、昭和26年創業のレジャー企業「双葉交通」、1595年に日蓮の僧・日源上人が八女に伝授した技術に

始まる「八女手すき和紙」等への支援が実際の活動となった。研究方法として、「フィールドリサーチ」「プロトタイプ作成」「調整」「製品化」「CI製作」、あるいは「特色作り」「話題作り」「ワークショップの開催」、そして「記録・広報・発信」などが核となった。

これまで挙げた手法は、いずれも「地域の振興」と深く結びついており、とりわけ、「博多織」「八女手すき和紙」「久留米織」を取り上げたワークショップには、幼児や未就学児童あるいはその保護者が参加したことから、若年層に対する伝統と技術の四達となり、次世代の後継者育成活動へと発展する可能性をもたらした。

「芸術教育の見える化」および「伝達・広報」については、「伝統の保持・継承」「地域の振興」の活動風景・研究プロセス・成果などを写真と映像の両者の研究にリンクさせた。「芸術教育の見える化」は「製品化」「企画案の提示」とともに、「伝統工芸」「地域産業」に基づいた写真・映像作品を製作し、展示会を通じて「伝統」「産業」「観光資源」「地元素材」などを広く伝達・広報した。さらに、「伝達・広報」要素の強い成果の可視化については、「伝統工芸」「地域産業」に取材し、当初のプロジェクションマッピングを用いた伝達から、最終年度のデジタルサイネージ、インタラクティブコンテンツへ表現手段を拡大し、多くの幼児・児童の関心を引きつけるアトラクション製作などへ発展する展示を行った。

#### 4. 研究成果

国指定の重要無形民俗文化財となった歴史的地方文化「八女福島燈籠人形」の背景幕制作は3年間の実地経験を経て、合計3枚の背景幕が完成し各年の「放生会」で披露された。八女市教育委員会や燈籠人形保存会は、背景幕が順次整い始めていることを喜び、残された背景幕の完成を待っている。取り組み4年目となる2017年度が、戦後残された燈籠人形芝居4課題の最後である。今年度放生会で一通りの演目を観覧・体験することから、今後はやや制作スピードをあげて取り組む予定である。本年4月、第4演目の第一幕目が制作されはじめ、重要無形民俗文化財の燈籠人形芝居を維持運営するための環境整備の継続、すなわち歴史的地方文化の継承に芸術学部の一員として重要な役割を果たす意志を示している。

経済産業大臣指定・福岡県の伝統工芸品「博多織」「博多人形」の再生および振興支援については、新アイテムから受ける印象アンケートの市場分析結果を含め、毎年、新規デザインや企画の多くを提供しており、現代生活に適應した新アイテム販売に伴う収益の増加がわずかながら見られる。研究期間の3ヶ年を通して、「博多織帯」については、学生デザインによるほぼ30点の新アイテムが常に流通しており、中には、海外への販売ル

ート開拓による2割増の収益を得る企業もあった。「博多人形」については、20種近い新たなアイテムが現在市場に流通し、また、「博多の伝統的図柄」を用いた「生活小物」の提案と開発では、8種類の新アイテムが流通し始め、全国規模で展開する博多駅ビル内の大型店舗で試験販売された。

さらに、ワークショップで取り組んだ伝統的工芸品・伝統産業、写真・映像で取り上げた伝統的技術やその生業の記録についても、マスコミを通じた報道や放映が功を奏し、伝統および地域産業に関する情報の伝播に一役買ったことは間違いない。

上記研究には、常に学生が参加しているため、デザイン教育におけるアカデミックな循環と相乗効果を生み出すことができ、「調査企画 デザイン プロトタイプ製作 フィールドリサーチ 分析 製品化 流通 広報」というデザイン教育の一貫した流れが実施された。

2008年4月に活動の起源を持つ本研究は、地域振興活動を主目的として開始されたことから、企業のみならず、地域コミュニティと深い関わりを持ち、結果として、コミュニケーション力の向上や責任感を身につける学生が多かったことも成果の一つとしてあげられる。

本研究に関わった学生には、上記のような好ましい変化や顕著な勉学意識の向上が見られ、次世代型のデザイン教育の可能性も予見できた。その結果、平成28年(2016年)4月に「ソーシャルデザイン学科」が設置され、実践的美術・デザイン教育を基本とした社会に役立つクリエイター、情報デザイナー、ブランディングプランナー、デザインプロデューサーなどを目指す学生を育成するための「地域ブランド企画専攻」「情報デザイン専攻」が誕生した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

井上友子、青木幹太、佐藤慈、星野浩司、佐藤佳代、荒巻大樹、ソーシャルデザインと地域振興、九州産業大学芸術学会研究報告、査読なし、第48巻、2017年発行、97-102頁

佐藤佳代、井上友子、青木幹太、佐藤慈、星野浩司、荒巻大樹、地域伝統工芸をテーマとしたワークショップの展開、九州産業大学芸術学会研究報告、査読なし、第48巻、2017年発行、27-35頁

佐藤慈、星野浩司、荒巻大樹、青木幹太、井上友子、佐藤佳代、地域伝統産業活性化における映像メディアの役割、九州産業大学芸術学会研究報告、査読なし、第48巻、2017年発行、111-114頁

佐藤佳代、井上友子、青木幹太、佐藤慈、星野浩司、荒巻大樹、アート領域学生へのデ

ザイン教育アプローチ、九州産業大学柿右衛門様式陶芸研究センター論集、査読あり、第12巻、2016年発行、55-64頁

星野浩司、佐野彰、栗田融、五十嵐正毅、青木幹太、井上友子、佐藤佳代、荒巻大樹、南聡、映像コンテンツを基礎とした地域連携型キャリア教育の実践、九州産業大学芸術学会研究報告、査読なし、第47巻、2016年発行、129-132頁

佐藤慈、星野浩司、荒巻大樹、井上友子、佐藤佳代、青木幹太、デジタルサイネージを活用した伝統工芸品のプロモーション、九州産業大学芸術学会研究報告、査読なし、第47巻、2016年発行、125-128頁

青木幹太、井上友子、佐藤佳代、星野浩司、佐藤佳代、荒巻大樹、プロジェクト型デザイン教育の実践-大川家具工業会との産学連携活動の推移とその成果 2012から2015まで-、九州産業大学芸術学会研究報告、査読なし、第47巻、2016年発行、73-82頁

井上友子、青木幹太、佐藤慈、星野浩司、佐藤佳代、南聡、荒巻大樹、大学が関わる地域振興策の一例-重要無形民俗文化財八女福島燈籠人形背景幕製作事業を中心に-、九州産業大学芸術学会研究報告、査読なし、第47巻、2016年発行、55-60頁

佐藤慈、星野浩司、荒巻大樹、井上友子、佐藤佳代、青木幹太、映像コンテンツを活用した伝統産業振興プロジェクト、九州産業大学芸術学会研究報告、査読なし、第46巻、2015年発行、105-108頁

青木幹太、井上友子、佐藤佳代、星野浩司、佐藤慈、荒巻大樹、プロジェクト型デザイン教育の実践-宗像エリアのデザイン支援活動-、九州産業大学芸術学会研究報告、査読なし、第46巻、2015年発行、77-86頁

井上友子、大学を拠点としたクリエイターズ・ギルドの可能性、九州産業大学芸術学会研究報告、査読なし、第46巻、2015年発行、51-56頁

〔学会発表〕(計14件)

佐藤慈、井上友子、青木幹太、星野浩司、佐藤佳代、地域振興活動を通じた映像制作教育、第63回日本デザイン学会春季研究発表大会、2016年7月3日、長野大学(長野県上田市)

青木幹太、井上友子、佐藤慈、星野浩司、佐藤佳代、プロジェクト型デザイン教育の実践、第63回日本デザイン学会春季研究発表大会、2016年7月3日、長野大学(長野県上田市)

佐藤佳代、井上友子、青木幹太、佐藤慈、星野浩司、地域伝統工芸をテーマとしたワークショップの展開、第63回日本デザイン学会春季研究発表大会、2016年7月2日、長野大学(長野県上田市)

井上友子、青木幹太、佐藤慈、星野浩司、佐藤佳代、大学を中心とした行政/団体/企業の連携活動、第63回日本デザイン学会春

季研究発表大会、2016年7月2日、長野大学  
(長野県上田市)

青木幹太、井上友子、佐藤佳代、星野浩司、  
佐藤慈、荒巻大樹、プロジェクト型デザイン  
教育の実践、第62回日本デザイン学会春季  
研究発表大会、2015年6月13日、千葉大学  
(千葉県千葉市)

星野浩司、井上友子、佐藤佳代、青木幹太、  
佐藤慈、荒巻大樹、映像コンテンツを基礎と  
した地域連携型キャリア教育の実践、第62  
回日本デザイン学会春季研究発表大会、2015  
年6月14日、千葉大学(千葉県千葉市)

佐藤佳代、井上友子、青木幹太、荒巻大樹、  
佐藤慈、星野浩司、南聡、アート領域学生へ  
のデザイン教育アプローチ、第62回日本デ  
ザイン学会春季研究発表大会、2015年6月  
13日、千葉大学(千葉県千葉市)

佐藤慈、星野浩司、荒巻大樹、井上友子、  
佐藤佳代、南聡、青木幹太、伝統工芸品の振  
興を目的とした映像制作プロジェクト、第62  
回日本デザイン学会春季研究発表大会、2015  
年6月13日、千葉大学(千葉県千葉市)

井上友子、佐藤佳代、青木幹太、星野浩司、  
佐藤慈、荒巻大樹、南聡、八女福島の燈籠人  
形舞台背景幕修復・製作事業について、第62  
回日本デザイン学会春季研究発表大会、2015  
年6月13日、千葉大学(千葉県千葉市)

隈元あゆみ、青木幹太、産学連携による大  
川家具の商品開発プロセスと活動結果、日本  
デザイン学会第61回春季研究発表大会、2014  
年7月5日、福井工業大学(福井県福井市)

星野浩司、井上友子、佐藤佳代、青木幹太、  
佐藤慈、荒巻大樹、佐野彰、栗田融、黒岩俊  
哉、地域産業と食育を主題とした映像制作に  
よる実践教育プログラム、日本デザイン学会  
第61回春季研究発表大会、2014年7月5日、  
福井工業大学(福井県福井市)

佐藤慈、青木幹太、井上友子、星野浩司、  
荒巻大樹、博多人形PV制作プロジェクト、  
日本デザイン学会第61回春季研究発表大会、  
2014年7月5日、福井工業大学(福井県福井  
市)

青木幹太、井上友子、佐藤佳代、星野浩司、  
佐藤慈、荒巻大樹、プロジェクト型デザイン  
教育の実践、日本デザイン学会第61回春季  
研究発表大会、2014年7月5日、福井工業大  
学(福井県福井市)

井上友子、佐藤佳代、青木幹太、星野浩司、  
佐藤慈、荒巻大樹、企業連携を通じた実践力  
の修得、日本デザイン学会第61回春季研究  
発表大会、2014年7月5日、福井工業大学(福  
井県福井市)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

本研究の性質上、マスコミによる報道は効果  
をはかる良い指標であるため、以下に掲載す  
る。

「燈籠人形3枚目の背景幕 - 八女市 九産  
大生4人が制作」(西日本新聞 2016/07/29)

「学生がデザイン」(朝日新聞 2016/03/01)

「九産大生の完成 新商品に」(西日本新聞  
2016/02/21)

「九産大プロデュース展」(毎日新聞  
2016/02/19)

「芝居の背景幕 九産大生描く」(朝日新聞  
2015/09/09)

「燈籠人形の背景幕 九産大学生が制作」  
(西日本新聞 2015/09/02)

「プロデューサーは九産大生 若い感性生  
かし地元企業と開発」(朝日新聞 2015/02/20)

「学生、企業の連携商品」(西日本新聞  
2015/02/27)

「九産大プロデュース展」(TVQ 九州放送  
2015/02/24)

「窓」(九産大プロデュース展)(日本経済新  
聞 2015/02/20)

「地元産業と連携 九産大プロデュース展」  
(RKB 毎日放送 2015/02/19)

「地元企業とタッグ 伝統工芸品に大学生  
の感性！」(FBS 福岡放送 2015/02/19)

「九産大プロデュース展」地域や地場産業と  
の「協働」作品展(テレビ西日本 2015/02/19)

「スーパーニュース」(TNC テレビ西日本  
2014/09/19)

「スナッピー」(RKB ラジオ 2014/06/07)

熱烈発信!九州 NOW 『八女福島の燈籠人形  
新しい背景幕 大学が制作』(NHK 福岡放送局  
2014/07/29)

『"女性のために"女子大学生が企画』(NHK  
福岡放送局 2014/06/12)

『博多織や博多人形に大学生の発想』(NHK 福  
岡放送局 2014/07/31)

九産大生が制作 博多人形など展示(毎日新  
聞 2014/08/08)

『八女福島の燈籠人形 背景幕 九産大生  
が新調』(西日本新聞 2014/07/30)  
『八女福島の燈籠人形』背景幕プロジェクト  
(TNC テレビ 2014/09/19)  
九産大生制作の背景幕設置 - 八女 - 燈籠人  
形に新たな彩り(西日本新聞 2014/09/11)  
九産大生制作の背景幕設置 - 八女 - 燈籠人  
形に新たな彩り(西日本新聞 2014/09/11)  
「超短波」(西日本新聞 2014/06/08)  
『学生が燈籠人形の背景幕制作へ』(NHK NEWS  
WEB2014/07/29)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

井上 友子 (INOUE, Tomoko)  
九州産業大学・芸術学部・教授  
研究者番号: 9 0 3 3 0 7 8 7

### (2) 研究分担者

青木 幹太 (AOKI, Kanta)  
九州産業大学・芸術学部・教授  
研究者番号: 7 0 1 5 9 2 7 6

佐藤 慈 (SATO, Shigeru)  
九州産業大学・芸術学部・教授  
研究者番号: 9 0 4 1 2 4 6 0

星野 浩司 (HOSHINO, Koshi)  
九州産業大学・芸術学部・教授  
研究者番号: 6 0 5 5 2 2 0 5

佐藤 佳代 (SATO, Kayo)  
九州産業大学・芸術学部・准教授  
研究者番号: 7 0 4 5 4 9 0 7

南 聡 (MINAMI, Satoru)  
九州産業大学・芸術学部・教授  
研究者番号: 3 0 6 1 5 3 6 5

荒巻 大樹 (ARAMAKI, Daiki)  
九州産業大学・芸術学部・講師  
研究者番号: 3 0 6 0 1 3 7 2

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

なし